

あぜみち

私の住む村は、都心まで約九十分と比較的交通の便に恵まれた緑豊かな農山村です。二十年前までの農業経営の主体は養蚕であり、全盛期には、全国一の天皇杯に輝く養蚕農家も現れ、大変活気のある村でした。

ところが、輸入自由化による絹価格の下落は安定収入のあつた農家経済を直撃し、傾斜地農業に依存する村に深いダメージを与えました。観光農業への取り組みも、このような状況により始まったといえます。

私達の日野観光農園村の生まれは、二十年前です。皆で団結し地域を売り込めば観光農業で生きられるのではとの発想から、十戸の農家が結集し、「いつ来園していただいても何か楽しめます。」「狩り取りが年間して可能です。」「をキャッチフレーズに、ぶどう、トウモロコシ、シイタケ、イモ掘りを主体に始まり、入込観光客も年々増加しました。皆で行動を起こしたことが地域にインパクトを与える結果を生みました。農園村役場(道の駅荒川村)は、行政における村の観光宣伝・案内と農産物・みやげ品の販売をする観光施設です。ここへの農家出荷登録者数は、村全体の三分の二に達しました。新鮮な野菜・山菜類の生産者の持ち込みは活気があり、以前のマツの出荷風景を連想させ、地域が活性化さ

れて来ていることを肌で感じられとても気持ちの良いものです。これが現在までの実態です。

しかしながら、農家の高齢化は進んでいます。傾斜地における経営は容易ではありません。不耕作地は年々増加し、そばの里としての村おこしも、中山間地の難しさでしょうが、遊休地の解消には程遠い感があります。また野生鳥獣の被害も大きく、サル、シカ、イノシシの出没は農家の生産意欲の減退を引き起こすこととなります。国・行政の中山間地農業の重要性を認識した活性化への取り組みは大変重要ですが、私達の村の場合、今後は野生鳥獣対策をしつかりクリアしなければ前に進めない様な気がしてなりません。

(埼玉県荒川村 新井潤一 農業)